

口永良部島の地殻変動* Crustal Deformations around Kuchinoerabu Volcano

国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

第1図は、「だいち」PALSARによる口永良部島のSAR干渉解析結果である。左列は南行軌道(Descending)で上段(a)は2007年3月11日と2009年3月16日、下段(b)は2009年3月16日と2009年8月1日のペアを取った解析結果である。右列は北行軌道(Ascending)で上段(c)は2007年1月11日と2009年3月3日のペア、下段(d)は2009年3月3日と2009年7月19日のペアを取った解析結果である。それぞれの画像について、火山周辺の拡大図を全体図の下につけてあるが、(c)の図において新岳火山周辺で衛星に近づく方向の変位が見られる。変位量は衛星視線方向に最大約7cmである。

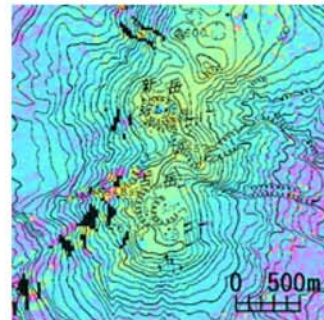
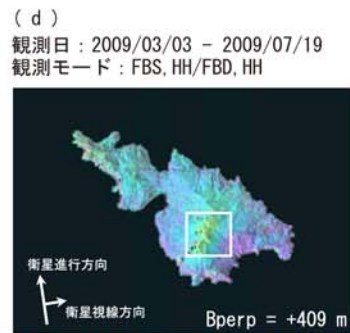
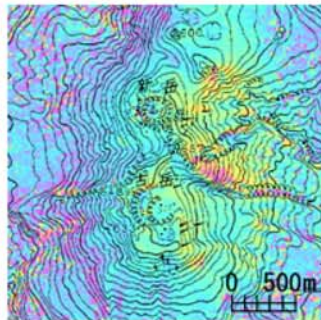
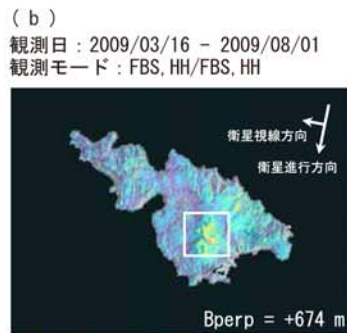
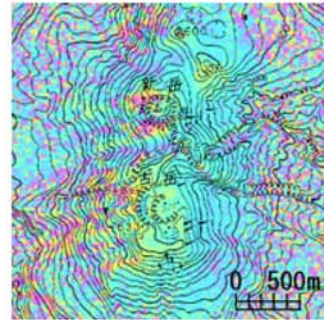
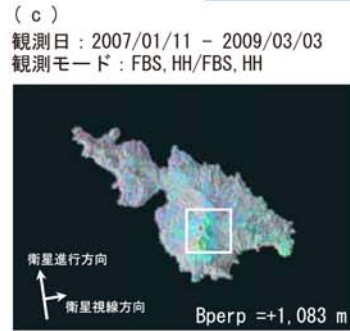
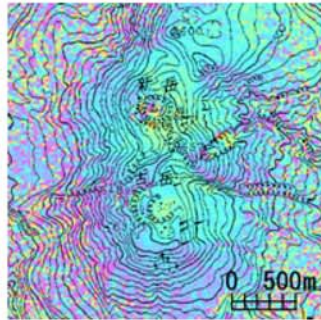
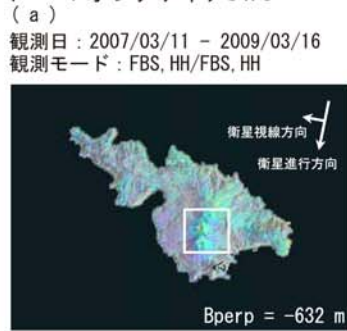
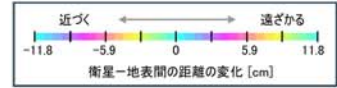
謝辞

だいち/PALSARデータの所有権は、経済産業省および宇宙航空研究開発機構にあります。またデータは、国土地理院と宇宙航空研究開発機構との共同研究協定に基づいて、提供を受けたものです。この場を借りて、御礼申し上げます。

<解析データ>

衛星/センサ : だいち (ALOS)/PALSAR (波長23.6cm)

観測モード : オフナディア34.3°



判読)
(c)の画像では、新岳火口周辺で衛星に近づく方向の変位が見られる。変位量は衛星視線方向に最大約7cmである。

Analysis by GSI from ALOS raw data of JAXA, METI

第1図 「だいち」 PALSAR による口永良部島周辺の解析結果

Fig.1 Interferometric analysis of SAR acquired by “Daichi” PALSAR on Kuchinoerabu Volcano.